

## 2016 年度前期 立命館大学・大学院入学式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご家族の皆様、ご子息、ご息女のご入学、おめでとうございます。

また、学部での勉学を終え、さらに、大学院に進んで、高度な勉学へと向かわれる皆さん、ご進学、おめでとうございます。

立命館大学長として、皆さんを心から歓迎いたします。

本年度、立命館大学は、7,828 名の学部新入生を迎えました。

また、大学院には、1,087 名の皆さんが進学しました。

さらに、世界 17 カ国・地域から、355 名の留学生を迎えました。

このように、立命館大学は、旺盛な勉学の気風と、国際的な環境の下で学ぶ条件に溢れています。この環境を我が物にしてほしいと思います。

皆さんは、これから大学生・大学院生としての新しい生活を開始します。

20 歳前後は人間が最も大きく成長する時期です。大学での過ごし方が人生のベースを作るといっても過言ではありません。また、学生時代は、考えたり、悩んだりする時期でもあります。しかし、思う存分考えをめぐらすことができるのは、学生時代の特権とも言えます。一緒に悩みを語り合える生涯の友人を見つけてほしいと思います。また、健康にも関心を持ってください。何事をなすにも健康が前提です。20 歳前後に作りあげられた身体は、生涯の財産になります。

さて、大学は、その学びを終えれば、社会に巣立つ、社会に出る直前の教育機関です。社会の一員として自らが目指す活動ができるよう、大学時代にしっかりとした力量を獲得する必要があります。

では、どのような力をつけるべきでしょうか。

ご承知のように、今、グローバル化が急速に進んでいます。皆さんが、いずれその一員になって行く社会は、世界と無縁であることは考えられません。

そのような社会で活動しようとするれば、外国語の能力が当然、必要となります。

しかし、外国語が話せるとしても、大事な点は、「何を話すか」です。世界の人々と話をするためには、歴史をはじめ、それぞれの国に関する深い理解、そして自分の国やふるさとを語る知識が必要です。国際的なコミュニケーション能力は、

単なる会話の能力ではありません。内容を伴った会話を可能にする価値ある教養こそが必要なのです。

また、皆さんが生きて行くこれからの時代は、知識や情報が次々と更新される社会です。このような社会で求められる能力は、すぐに役立つ知識のみではありません。そのような知識は、変化の早い現代では、すぐに陳腐化してしまいます。だからこそ重要なことは、大学時代に、学び続ける方法や態度を身につけることです。大学とは、「学び方を学ぶ場所」なのです。

その基本は読書です。先生や友人から、今読んでいる本のタイトルを聞かれたら、いつでもすぐにそのタイトルを言える、そのような生活を送ってください。

もうひとつ、大事な点は、これからの世界の広がりの中で、これまでの知見では解決が困難な問題が次々と発生してくるということです。常識にとらわれず、人類の獲得してきた知見と経験を踏まえて、そのような解決困難な問題に挑戦する志を持ってほしいと思います。

このような課題に挑戦しようとする、必ず、壁に直面するでしょう。

近年、立命館大学ではBeyond Bordersというシンボル・メッセージを用いています。これによって、大学の教育と研究の進むべき方向を提示しています。Beyond Bordersという言葉には、国境・人種・宗教・性別・価値観・言語などのさまざまなボーダーを越えて行ってほしいという思いと、自分の限界にもチャレンジして行ってほしいという願いをこめています。

立命館は「未来」という言葉を大切にしています。元総長の末川博先生が述べられた有名な言葉に「未来を信じ、未来に生きる」という言葉があります。

実は、この言葉には続きがあります。「ここに青年学徒の生命がある」という言葉です。何が青年を特徴づけるかと言えば、次の時代を担っていく主人公・主体だという点です。

今年6月には、18歳からの選挙権の行使が認められます。国の将来を決する権利と責任を負うことになります。これは、きわめて大きな責任です。この責任を果たすことのできる判断力を培ってほしいと思います。

特に本学は、「平和と民主主義」を教育と研究の理念に据えています。「平和」な社会の実現のために何をすべきかを民主主義的な社会の主権者の一人として考えてほしいと思います。

もう1つ忘れないでいて欲しいことがあります。人は誰も、1人で生きている

のではないということです。生きるということは、互いに支えあって生きていくということです。日々消費しているものも、何一つとして自分で作ったものはないでしょう。それを作ってくれている人がいるということに思いを馳せ、自分も自分なりのやり方で、困っている人に共感し、社会のためになろうという志を持っていただきたいと思います。

そして、入学にあたり、立命館の意味を知ってほしいと思います。立命という言葉は、「妖寿たがわず、身を修め、もってこれを待つは、命を立つるゆえんなり」という孟子の尽心章句からきています。「命を立つる館」である立命館とは、「修養を積んで、人生を切り開いていく場所」という意味です。皆さんには、この立命館で、人生を切り開いていく力を獲得してほしいと思います。

皆さんのお手元にクリアファイルをお配りしているかと思います。今日、入学式を迎えられた皆さんへの立命館大学からのメッセージです。最後に、この言葉を贈ります。

この冒険は、決してスマートではない。  
この冒険は、決して最短距離を目指すものではない。  
この冒険は、決してインターネットでは経験できない。  
多様性という名のダンジョンで迷い  
現実という名のモンスターと格闘し  
さまざまなクエストを仲間と乗り越えるたび  
レベルアップしている自分に気づくだろう。  
いよいよはじまる新たな挑戦。  
若さと可能性を武器に、  
強さと優しさを持って。  
次のクエストをみつけるのは、あなた自身。  
さあ、明日からあなたは未来を創る冒険の主人公だ。

2016年4月2日 立命館大学長 吉田美喜夫